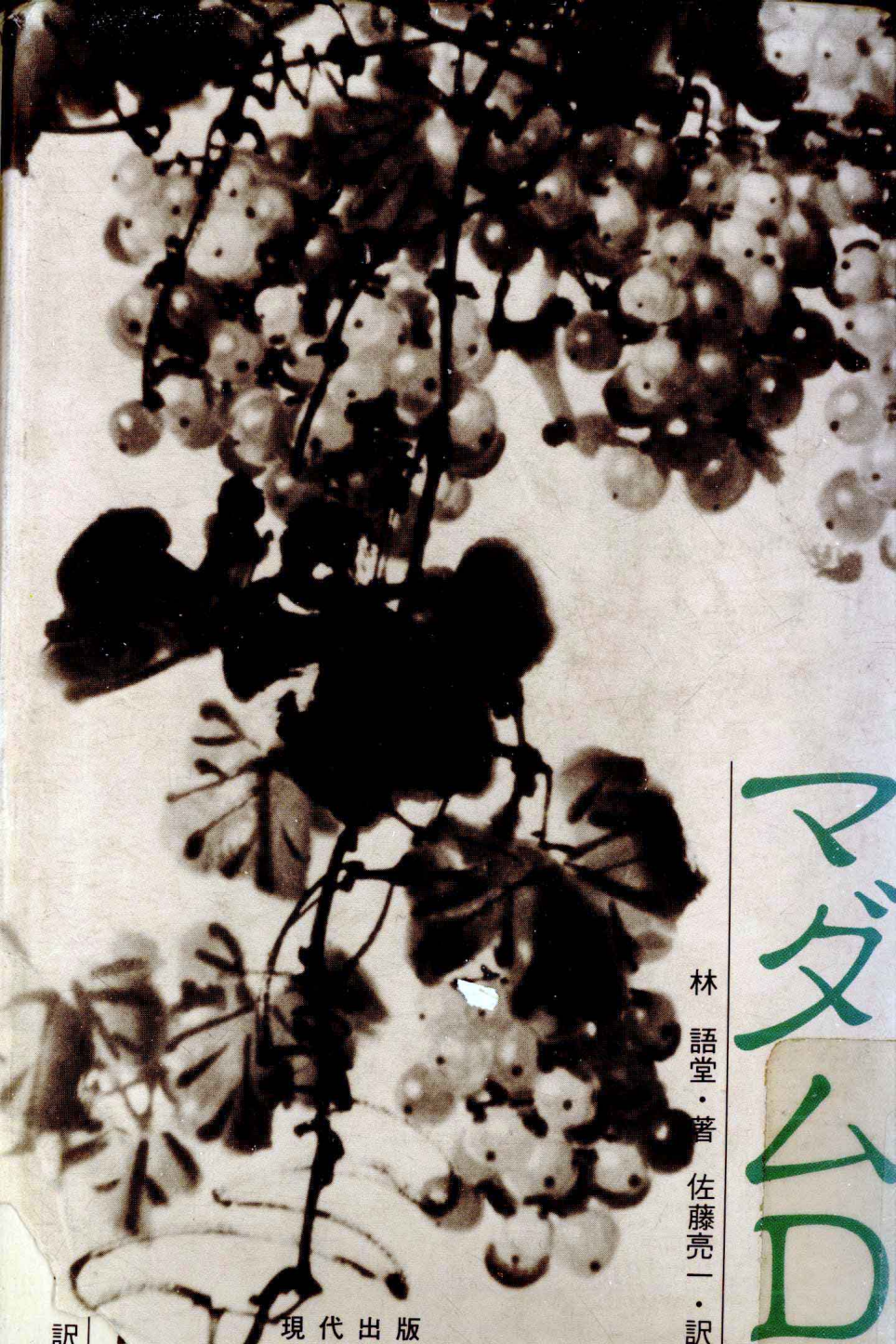


マダムD

林語堂・著　佐藤亮一・訳

現代出版

＊著者　林 語堂 博士

1895年福建省漳州に生まれる。米ハーバード大学，独イエーナ，ライプチヒ大学に学び，のち北京大学教授。中国語と英語による作品，論文を多数発表。第二次大戦後ユネスコ文芸部長。1976年没。一時ノーベル文学賞の候補にあがったが，戦時中のため取り止めになった。訳者は林博士作『北京好日』（河出書房，芙蓉書房），『杜十娘物語』（朋文社），『朱ぬりの門』（西域の叛乱と恋）（新潮社），『ソ連革命と人間性』（創元社），『紅楼夢』（六興出版）その他論文などの翻訳を通して三十数年の知友関係。

＊訳者　佐藤 亮一

1907年青森県に生まれる。慶應義塾大学卒。毎日新聞記者を経て，慶應大，慈恵医大講師，共立女大教授を経て現在日本翻訳家協会副会長，1984年国際翻訳家連盟第5回国際翻訳賞受賞。訳書にチャーチル『第二次世界大戦』，リンドバーグ『翼よ，あれがパリの灯だ』，林語堂『北京好日』ほか，米英文学，記録物の訳書多数。

■編集協力　㈱現代翻訳通訳センター

マダムD

著者　林　語堂
訳者　佐藤　亮一
編集　木村　栄美
発行者　岸田　徹
印刷所　株式会社 和晃

発行所　株式会社 現代出版
本社　〒160 東京都新宿区西新宿3－3－11　第2杉本ビル
振替・東京7-43012　電話 03-342-6984(代表)
関西支社　〒603 京都市北区紫竹上岸町19　電話075-492-6976

落丁本・乱丁本はお取りかえいたします。　©1985 GENDAI Publishing

0081

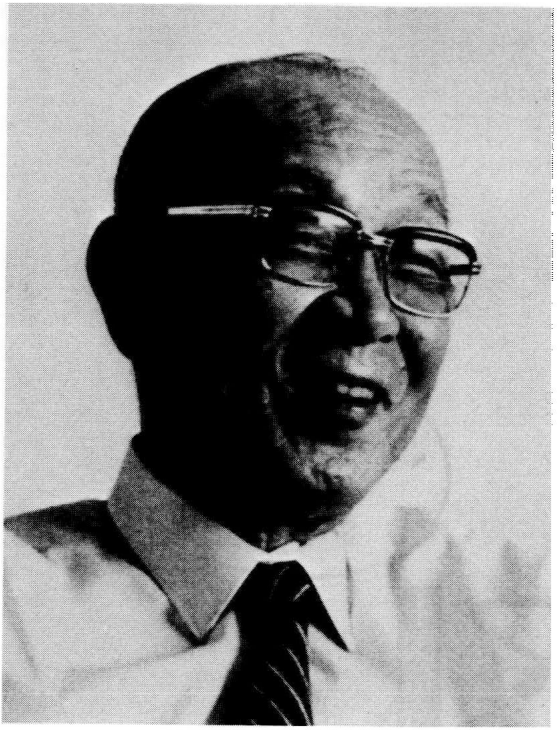
ISBN4-87597-307-1 C0097

中国伝奇小説二十編

マダムD

林語堂・著　佐藤亮一・訳

埼玉県立浦和図書館
川口分館
745
蔵書



林　語　堂　1895—1976

FAMOUS CHINESE SHORT STORIES

By Lin Yutang

©1948, 1951, 1952

本書はタトル・モリ・エイジェンシーを
通じて，林語堂夫人，廖翠鳳との契約に
基づき発行されたものである。

序

本書は中国で古くから伝わる短編小説から最も有名な二十篇の物語を収めたものである。特に外国の読者の興味をひくと思われるものを選んだので、かなり除外した物語もある。それはテーマそのものや、問題となる内容や、背景となる社会、時代というものが非常に説明しにくいことと、外国の読者にはたいして興味をひかないと判断した物語は除いた。わたしがここに選んだ物語は、一般の興味に強く訴えるもの、そしてそれが近代の短編小説の趣旨にそうものと考えたものばかりである。

わたしは短編小説のめざすものは、読者が読むことによって人間性を洞察し、あるいは人生への認識を深め、あるいは人間への憐憫、愛情、同情の念を改めて悟るといった満足感を得ることだ、と思う。わたしがここに選んだ短編小説は、読者が淡々としかし興味を持って読んでくれればよいものばかりで、編集にあたって、特別に技巧などは用いなかった。それぞれに遠い昔の異国情緒と時代背景によって、読者の興味にさまざまに訴えるものがあろう。

美妙な故事に耳を傾けるのは人間の自然の情である。中国における故事物語は歴史が始まると同時に登場し、遠く『左伝』（紀元前三世紀）と『史記』（紀元前二世紀）の両書中に、人物の描写と衝突、闘争の場面が生き生きと見られる。（注　春秋左氏伝。中国の歴史書、作者と成立には諸説があるが、一般に春秋に魯の左丘明が解説を加えたもので、戦国時代の成立とされる。簡

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.

潔で力強い文章で書かれ、中国古代文学の傑作の一つ。史記は、前漢の歴史書、司馬遷の著、紀元前九六年成立、上古の皇帝から漢の武帝に至る三千年間の歴史を記したもの）また紀元一世紀には神がかりの奇怪事件の記録が多いが、しかしこれらには浅薄なものが多く、短編小説として芸術性を具えているのは、実際には唐時代（特に八世紀から九世紀にかけて）に入ってからのものである。唐代のものはいわゆる伝奇といわれるもので、だいたい千語以内の古文体だが、読者の想像力を刺激する不思議な筆力を見せている。後世の作者たちがこれらを模倣、誇張した物語を発表しているが、無益なことであった。唐代こそ中国の詩歌の黄金時代であり、同時に短編小説の黄金時代でもあった。唐時代は、エリザベス朝のイギリスのように、人々の想像力が旺盛で、自由奔放な心情にあふれ、後代の人々には遠く及ばないほどのすばらしいものがあったからである。当時すでに仏教に関する故事が中国社会に深く入り込み、道教（老子を教祖とする中国の多神教、長生不死を説く中国古末の神仙説に仏教思想や民間信仰が加わったもの）は皇室や官辺で尊崇を集め、かつ天下には何一つ奇怪事や不能なことはないと思われていた。そこにあるのは法術であり、武侠であり、戦争であり、浪漫の時代であった。大きくわけると、宋朝は中国文学の上では合理主義の時代であるのに対し、唐時代は浪漫と想像の時代であった。厳密には、唐代にはまだ真正な戯曲とか長編小説というものがなかったが、当時の作者たちの手になる伝奇や神秘の古典は、後代の作者たちの及ぶところではない。そのため、わたしが本書に選んで入れたものの半分は唐代のものである。

唐の伝奇物語はやがて宋代の話本、つまり白話文（日常語）による書物に席を譲ることになっ

た。これは新しい発展であり、従来の伝奇物語に加えて、中国には二つの種類の短編小説が生まれることになった。古典の短編小説の総集編の最大のものは、宋朝初期の八九一年に刊行された『太平広記』で、これが紀元十世紀までのほとんど一千年間で文芸短編小説の要略をなすもので、いわば一時代の終焉を象徴している。唐代の伝奇小説の精華は、すべてこの総集編の中に収められ、他に類を見ない。

しかし伝奇小説が盛んなときは、一般庶民の好みに応じて、一種の口語文学が「茶館」、「酒店」などで自然に発展した。これは当時の世俗の娯楽でもあった。宋朝の都には各種の講釈師がおり、ある者は歴史的ロマンスを得意とし、ある者は宗教秘聞に精通し、ある者は英雄の伝記に長じて、それぞれ庶民を喜ばせた。十一世紀の蘇東坡（一〇三六―一一〇一、北宋の人。唐宋八大家の一人。政治上王安石の新法に反対した旧法党の中心的人物。詩文に長じ、とくに文は宋代随一と称せられ、「赤壁の賦」をはじめ、多くの名作がある）の書いたものによると、当時、世の父母たちは家の中で子供らがうるさくすると、これらの講釈師の話を聞きに行くように追いやったという。また宋の皇帝真宗（一〇二三―一〇六三）は臣下に命じて、一日に一話を講釈師に話させた。この物語をすべて集録した二部が近年に至って発見されたが、白話の小説としては最古のもの、しかも最高の佳作を含んでいる。これら講釈師が使用した書本の原作者は不明だが、内容から、宋朝（十一―十二世紀）の人物であると判断される。この集録は『京本通俗小説』として知られ、『白玉観音』と『ジェラシー』の種の源として知られている。これには八篇の小説が含まれているが、いずれも優れたもので、うち妖鬼小説が二篇、犯罪小説が一篇あるが、現今

版ではひどく淫猥な小説一篇は除かれている。もう一つの総集録『清平山堂』（現在最古の版は一五四一―一五五一年間の刊行とされる）は、わたしの知るかぎりでは中国文学中最高の犯罪小説であり、文章も非常に洗練されている。この集録にはぞっとするような幽霊の物語がいくつかある。その中の一つは、次のような話がある。女幽霊（女鬼）が次々に若い男子を拉っては自分の淫欲の相手にして弄ぶのを常とし、若い男が連れこまれると女鬼はいつも、「新しい相手が来た、古い奴はさっさと追い出せ」と命令した。そして前の青年の内臓は引き裂かれて食べられてしまった、というようなことがあるこの二つの集録にある白話体の小説の多くは、後に明代の短編小説全集の中に収録された。

中国文学に通じておられる読者の中には、わたしが明代の各種の短編小説集から、なぜ『今古奇観』のようなものを除いたのかを疑問に思われるかもしれない。明代には『今古奇観』は最も知られており、これ自体も例えば『驚世通言』のようなこれより古い、小説集から選んで収録したものだが、少なくともこのほかに五つか六つの有名な小説集があった。これらの物語は叙述体であるが、唐代の伝奇小説と現代の短編小説の中間の、どっちつかずの位置にあり、主題は陳腐で、叙述も平凡である。確かに興味ある中身がないわけではないが、ただ人間の個性とか意義を深く衝くという点に欠けている。その点では、唐宋時代の古典的短編小説は、短文ではあるが、人生と人間の行為について、われわれに驚嘆と美妙の感を抱かせる。

本書には各種の短編小説を公平に選んで入れた。冒険神秘小説からは、まず『ひげ』を入れたが、唐代の短編小説では最高の作品と思ったからである。まず対話の部分が秀逸であり、人物

の描写と事件の経緯が生き生きとしていて、いささかも不自然さがない。

愛情と神秘を扱った題材が最も多く、犯罪小説、冒険小説、怪奇小説をほとんど入れなかったのは、それらには男女の愛情の要素がないからでもある。洋の東西を問わず読者の心をとらえ、その鼓動を強く打つのは若い男女間の愛情物語である。本書には含まれていないけれどほかにも多くの愛情故事がある。特に明代の小説集の中には、愛し合う若い男女がひとたび機会を得れば、まず寝床に飛び込むといった、ばかげた話が多くある。本書で選んだ『緑鶯伝』は中国で最も有名な愛情小説であり、少なくとも強烈な愛の感情がもとになって、高雅富貴の家柄に生まれた美女が、やがて性の経験を得るという故事である。この物語は傑出した一詩人の作であるが、これがやがて有名な『西廂記』なる劇に改編されるにいたって、その文章の華美、詩句の秀麗さは、まさに中国文学の精華を尽くし、愛情の書の古典となった。この原作にもとづいて後の人がそれぞれの趣向で八本の戯劇を編んでいることでもこの作品があまねく人々の好みに投じたことかわかる。

有夫の婦人の私通を扱った『マダムD』は、いろいろ複雑な事情から強いられた不幸な結婚によるものだとしてその女性通に同情をよせられたものである。純情な青春愛の故事は、まず『離魂記』であろう――この中では愛情と神秘の二つの要素が完全に融合していることが示されている。これには疑問をさしはさむ余地はない。実際に起こったことなのである。

中国文学に現れる鬼女とか幽霊には、二つの役割がある――つまり相手を怖がらせるか、あるいは相手を魔力で迷わせるかである。しかしどちらかといえば、人を迷わすことのほうが多い。

中国の貧しい文人は、既婚、未婚を問わず、自分の書斎にこもっているとき、妖しき美女の姿を思い浮かべることを好み、自分の相手に夢の美女を描き出すのを好むからである。深夜独り自分の書斎に座っているとき、淡い燈光の中に妖麗な幽霊が笑みを浮かべながら現れて誘惑の手をのばし、やがて同居の生活が始まり、彼が病気をすれば万端の看病をし、かわいい子を次々に生んでくれる……などと想像することは、何ものにも増して男にとって楽しいことなのである。

『ジェラシー』（西山一窟鬼）は、嫉妬に燃えた二人の女幽霊の物語だが、幽霊物語の第一級の作であり、読者が鳥肌を立ててくれることを望む。『美しき幽霊たち』は同じ女幽霊でも天真快活な愛すべき乙女で、みんなの友である。この作者蒲松齢（一六三〇―一七一五）は本書に収めた唯一の明代の人物である。彼の『書痴』（読書狂）は政治家を諷刺したもので、しおりの上に刺繍で彩られた妙齢の一女性が、歴史書の中から歩み出て貧しい書生に愛を告げる。そして勉強ばかりして官途の功名を求めることを止めるよう忠告する。中国の神怪小説作家数百名の中では、この蒲松齢ひとりが説得力をもって物語を詳しく描き出している。彼は嫉妬する女性と亭主を尻に敷く女を扱った作品で有名であるが、彼には狐の霊（例えば美女に化けて男を誘惑して亡ぼす女）への特別の興味があった。彼の作品三篇を本書に収めた。

唐代の幻想小説とユーモア（幽默）小説は、別格を成しているといってもよい。これは李復言の四篇によって代表される。彼は『酔漢昇天』の作者李公佐ほど著名ではないが、しかしわたしは彼を高く評価している。彼の小説は全部どことなく風変りで幻想を超越し、唐時代の小説の特徴をしっかりと具えており、愛すべき作品である。李は九世紀前半の人であるが、まさに伝奇小

説の全盛時代であった。これら唐代を通じて有名な伝奇小説の五分の四は、九世紀前半に生まれたものである。これらの伝奇作家の多くは段成式（『葉限』の作者）、李公佐（『酔漢昇天』の作者）、蔣防、徐永如、陳鴻、白行簡（詩人白居易の弟）、元稹（『緑鶯伝』の作者）ら、みな李復言と同じ時代の作者たちである。九世紀が唐代の伝奇小説の時代であるならば、八世紀は唐代の詩歌の時代である。

伝奇小説が世を風靡したが、当時の宰相牛僧孺も通俗伝奇作家であった。彼の神怪小説の中には背丈三寸ほどの超能力をもつ小人が殺伐な戦場におもむくというもののほか、多数の冒険小説がある。李復言は牛宰相に次いで神怪小説を多く書いた。彼の小説は牛に比べ、素材と表現に優れている。これらの物語は、われわれを怪奇、不可思議な世界に誘い込み、『アラビアン・ナイト』（天方夜譚）の楽しみを与えてくれる。シンデレラ物語の『葉限』もこの時代の作品であるが、この種のものとしては恐らく世界でも最古のものであろう。この物語には意地の悪い継母と連れ子の意地悪姉妹と失われた鞋などが登場するが、これはヨーロッパで一五五八年に書かれた最古の版より七百年余も前にさかのぼる。

わたしは英訳に当たって、厳格に言えばいわゆる逐語逐条的に訳したわけではない。また時には翻訳が不可能なこともあった。言葉と習慣と慣行などの違いは当然のことだが、しかしこれは説明を要するし、登場する人物への自然の同情、そして特に現代の短編小説の技巧的な面などから、いたずらに原文に拘泥しているわけにはいかないのである。蒲松齢と李復言の小説には、少し変更を加えた。物語の効果をあげるために、部分的に内容を省いたり付け加えたりしたとして

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.

も、それは中国の小説家たちが前代の版を参考にして書いていたのと大同小異のことである。更改を加えたとしても、わたしは常に正史に忠実であることに努めた。読者が原典に関心をもつことを考慮して、各編の最初に前記をつけた。

『白玉観音（Jade Goddess）と『母の伝説』（Chastity）は「婦女家庭良友」Woman's Home Companionに、また『葉限』（Cinderella story）は、『中国与印度之智慧』The Wisdam of China and Indiaに発表されている。

目次／マダムD

序……3
ジェラシー……15
酔漢昇天……42
離魂記……52
ひげ……66
紅糸……89
白猿伝……97
マダムD……119
美しき幽霊たち……142
詩人クラブ……160
白玉観音……173

書痴……194
中山狼……206
龍宮一夜……215
葉限……223
こおろぎ……228
人変魚……244
悪夢……252
母の伝説……260
差出人不明……283
緑鶯鳥……308
訳者あとがき……331

ジェラシー

宋・作者不詳

本編は『京本通俗小説』（宋代）から選んだものだが、作者は不詳。この種の恐怖小説は、当時茶館や酒舗で喜んで聞かれたものであろう。この物語は聞いているうちに、みんながこの幽霊物語に関係があるような気がして、恐怖の極点にまで釣り込まれるような気にしたようである。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.